

活用編

もくじ

もくじ.....	1
本書をお読みになる前に	3
1章 パソコンの機能を活用する.....	4
1 テレビや外部ディスプレイを接続する.....	4
1 HDMI®出力端子に接続する／取りはずす	4
2 USB Type-C™コネクタに接続する／取りはずす	6
3 表示を切り替える.....	8
2 サウンド.....	9
1 スピーカーの音量を調整する.....	9
2 マイクやヘッドホンを接続する	10
3 CD／DVD／ブルーレイディスクを使う（光学ドライブ）	12
1 使えるCD／DVD／ブルーレイディスクについて	13
2 DVD／ブルーレイディスクの映画や映像を見る	15
3 CD／DVD／ブルーレイディスクをセットする、取り出す	16
4 メディアカードを使う（ブリッジメディアスロット）	19
1 使えるメディアカードについて	19
2 メディアカードをセットする／取り出す	20
5 USB／Thunderbolt™対応機器を使う	21
1 USBの常時給電と高速充電	22
2 USB対応機器を取り付ける／取りはずす	25
6 LAN機能を使う	26
1 有線LANで接続する	26
2 無線LANで接続する	27
7 Bluetooth®機能を使う	30

1 Bluetooth®対応機器と接続する	31
8 ホームページを見る	32
1 ホームページを閲覧しよう	32
9 メール機能を使う	33
1 Windowsのメール機能について	33
10 便利な機能	35
1 dynabook セットアップを使う	35
2 ecoユーティリティで省電力の設定をする	36
3 バッテリーを長持ちさせる	37
4 ディスプレイの消費電力をおさえる	38
5 パネルオープンパワーオンを設定する	39
6 dynabook オンラインミーティングアシストを使う	40
7 sMedio True BD for dynabookの使用にあたって	41
8 sMedio True DVD for dynabookの使用にあたって	43
9 メディアおよびハードディスク/SSDへの書き出し	45
10 CyberLink PowerDirector for dynabookの使用にあたって	47
2章 認証機能を設定する	48
1 システムパスワードを設定する	48
1 ユーザーパスワードを設定する	49
2 スーパーバイザーパスワードを設定する	54
3 HDD/SSDパスワードを設定する	56
4 パスワード入力時の注意	56
2 Microsoft アカウントのパスワードやPIN、またはWindowsパスワード	57
1 Windowsパスワードについて	57
2 PINについて	58
3 指紋認証を使う	59
1 指紋を登録する	59
2 指紋認証を行う	61
3 指紋データを削除する	62
4 顔認証を使う	63
1 顔の情報を登録する	63
2 顔認証を行う	64
3 顔データを削除する	64

本書をお読みにする前に

本製品を安全に正しく使うために、次のマニュアルも合わせてお読みください。マニュアルの内容は、改善のため予告なしに変更することがあります。

参照先	編名称	内容
付属の冊子および 『オンラインマニュアル』 または当社ホームページ 「dynabook.com」	安心してお使い いただくために	本製品を使用する際の重要な情報や、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項について説明しています。 ＊ 本製品を使用する前に、必ずお読みください。
『オンラインマニュアル』 または当社ホームページ 「dynabook.com」	取扱説明書	各部名称や接続方法、電源の入れかた／切りかたなど、本製品の基本的な使用方法について説明しています。本製品を初期状態に戻す方法やサポート情報についても説明しています。

1章 パソコンの機能を活用する

パソコン本体に用意されている、さまざまな機能について説明しています。

1 テレビや外部ディスプレイを接続する

1 HDMI®出力端子に接続する／取りはずす

Memo

- HDMI®対応機器すべての動作を保証するものではありません。
 - 接続するHDMI®ケーブルは、外部ディスプレイに付属または市販のものを使用してください。
 - HDMI®ケーブルは、HDMI®ロゴ（**HDMI®**）の表示があるケーブルを使用してください。
 - 1,920×1,080ドット以上の解像度の出力には、ハイスピードHDMI®ケーブルを使用してください。
 - 3,840×2,160ドット以上の解像度の出力には、ウルトラハイスピードHDMI®ケーブルを使用してください。
- 解像度については、次の手順で検索してください。
1. タスクバーにある検索ボックスに「解像度」と入力して検索する
- 表示可能な解像度はディスプレイにより異なります。
- テレビや外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できます。
- 参照** [「表示を切り替える（8ページ）」](#)
- 著作権保護された映像などをテレビや外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応したテレビや外部ディスプレイを接続してください。

1 接続する

1. HDMI®ケーブルのプラグを、テレビまたは外部ディスプレイのHDMI®入力端子に差し込む
2. テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れる
3. HDMI®ケーブルのもう一方のプラグを、パソコン本体のHDMI®出力端子に差し込む

参照 パソコン本体のHDMI®出力端子の位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

Memo

- HDMI®接続で、テレビまたは外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMI®ケーブルを抜いたあと、再度HDMI®ケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

■ 音声の出力をパソコン本体のスピーカーからテレビなどに切り替える

HDMI®ケーブルでテレビや外部ディスプレイを接続すると、自動的に音声の出力先がテレビや外部ディスプレイに切り替わります。

テレビや外部ディスプレイを接続しても音声切り替わらない場合は、次の設定を行ってください。

Memo

- 手動で音声の切り替えを行う場合、あらかじめ表示方法を [複製]、[拡張]、[セカンドスクリーンのみ] のいずれかに設定しておく必要があります。

参照 [「表示を切り替える \(8ページ\)」](#)

1. [スタート] ボタン () をクリックする
2. [設定] をクリックする
3. [システム] → [サウンド] をクリックする
4. [サウンドの詳細設定] をクリックする
5. [再生] タブでテレビまたは外部ディスプレイのアイコン () がある項目を選択し、[既定値に設定] ボタンをクリックする
6. [OK] ボタンをクリックする

この設定を行うと、パソコン本体から音声出力されなくなります。テレビや外部ディスプレイを取りはずし、パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順5で [スピーカー] を選択し、[既定値に設定] ボタンをクリックしてください。

2 取りはずす

1. HDMI®出力端子からHDMI®ケーブルのプラグを抜く

2 USB Type-C™コネクタに接続する／取りはずす

* USB Type-C™コネクタとは、Thunderbolt™ 4 (USB4™ Type-C)コネクタを指します。

* 以降、本書では「Thunderbolt™ 4 (USB4™ Type-C)コネクタ」を「Thunderbolt™ (USB Type-C™)コネクタ」と呼びます。

Memo

- 接続するケーブルは、外部ディスプレイに付属または市販の映像出力に対応したUSB Type-C™ケーブルを使用してください。
- 表示可能な解像度はディスプレイにより異なります。
- 外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できます。

参照 [「表示を切り替える \(8ページ\)」](#)

- 著作権保護された映像などを外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応した外部ディスプレイを接続してください。

1 接続する

1. 外部ディスプレイのケーブルのプラグを、外部ディスプレイのUSB Type-C™コネクタに差し込む
2. 外部ディスプレイの電源を入れる
3. 外部ディスプレイのケーブルのもう一方のプラグを、パソコン本体のThunderbolt™ (USB Type-C™) コネクタに差し込む

参照 ▶ パソコン本体のThunderbolt™ (USB Type-C™) コネクタの位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

■ 音声の出力をパソコン本体のスピーカーから外部ディスプレイなどに切り替える

USB Type-C™ケーブルで外部ディスプレイを接続すると、自動的に音声の出力先が外部ディスプレイに切り替わります。

外部ディスプレイを接続しても音声切り替わらない場合は、次の設定を行ってください。

Memo

- 手動で音声の切り替えを行う場合、あらかじめ表示方法を [複製]、[拡張]、[セカンドスクリーンのみ] のいずれかに設定しておく必要があります。

参照 [「表示を切り替える \(8ページ\)」](#)

1. [スタート] ボタン () をクリックする
2. [設定] をクリックする
3. [システム] → [サウンド] をクリックする
4. [サウンドの詳細設定] をクリックする
5. [再生] タブで外部ディスプレイのアイコン () がある項目を選択し、[既定値に設定] ボタンをクリックする
6. [OK] ボタンをクリックする

この設定を行うと、パソコン本体から音声出力されなくなります。外部ディスプレイを取りはずし、パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順5で [スピーカー] を選択し、[既定値に設定] ボタンをクリックしてください。

2 取りはずす

Thunderbolt™ (USB Type-C™) コネクタから外部ディスプレイのケーブルのプラグを抜く

3 表示を切り替える

＊表示装置は「本体ディスプレイ、テレビまたは外部ディスプレイ」を示します。

[FN]キーを押したまま **[F5]**キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。



(表示例)

[FN]キーを押したまま **[F5]**キーを数回押し、目的の項目を選択すると、表示装置が切り替わります。

項目	概要
PC画面のみ	本体ディスプレイだけに表示します。
複製	本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイの2つの表示装置それぞれに、同じ内容を表示します。
拡張	本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイの2つの表示装置を、1つの画面として表示します。
セカンドスクリーンのみ	テレビまたは外部ディスプレイだけに表示します (本体ディスプレイには何も表示されません)。

Memo

- テレビ／外部ディスプレイと本体ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度を変更される場合があります。
- テレビ／外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、テレビ／外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
- 映像を再生するアプリケーションを起動しているときは、表示装置を切り替えられません。
なお、ご使用の環境やアプリケーションにより複製表示、拡張表示での再生はサポートしていません。
- HDMI®出力端子またはThunderbolt™ (USB Type-C™) コネクタに接続したテレビ／外部ディスプレイと、パソコン本体のディスプレイに映像を同時表示できない場合があります。
- 省電力の設定によりテレビ／外部ディスプレイの表示が消えた場合は、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。スリープに移行した場合は、電源スイッチを押してください。表示が復帰するまで10秒前後かかる場合がありますが、故障ではありません。

2 サウンド

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。

音量はWindowsで制御しているため、Windows起動時や電源を切っているときは、音量変更はできません。

1 **[FN] + [3] または [FN] + [4] キーで調整する**

1. 音量を小さくしたいときは **[FN] + [3]** キー、大きくしたいときは **[FN] + [4]** キーを押す
[FN] キーを押したまま [3] キーを押すたびに音量が小さくなり、[FN] キーを押したまま [4] キーを押すたびに音量が大きくなります。

2 音量ミキサーから調整する

1. 通知領域の  アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「音量ミキサーを開く」をクリックする

通知領域に  アイコンが表示されていない場合は、[スタート] ボタン () → [設定] → [システム] → [サウンド] → [音量ミキサー] をクリックしてください。
[音量ミキサー] 画面が表示されます。

2. 各項目でつまみを左右にドラッグして調整する

 をクリックすると消音（ミュート）になります。

ボリューム	本製品のスピーカー／ヘッドセットやヘッドホンの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント（メッセージの表示、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

Memo ● キャプチャソフトなどを使用して、パソコンで再生中の音声を録音することはできません。

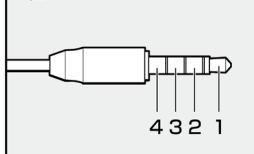
2 マイクやヘッドホンを接続する

1 使用できる端子の種類

マイク入力／ヘッドホン出力端子で使用できる端子の種類は次のとおりです。

参照▶ パソコン本体のマイク入力／ヘッドホン出力端子の位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

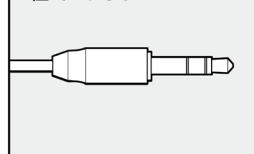
4極ミニプラグ



- プラグは直径3.5mm4極ミニプラグタイプが使用できます。
- 左図の数字は、次の内容を示します。
 - 1：ヘッドホン左
 - 2：ヘッドホン右
 - 3：グラウンド（マイク）
 - 4：マイク（グラウンド）
- 3ピンと4ピンのグラウンドとマイクは、本製品が自動識別します。
- マイク機能のみ、ヘッドホン機能のみを使用する場合、設定の変更を行う必要があります。

参照▶ [「マイク／ヘッドホンを選択する（11ページ）」](#)

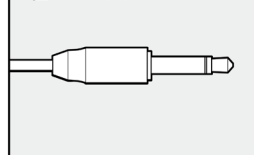
3極ミニプラグ



- プラグは直径3.5mm3極ミニプラグタイプが使用できます。
- マイク、ヘッドホンが使用できます。
- 設定の変更を行う必要があります。

参照▶ [「マイク／ヘッドホンを選択する（11ページ）」](#)

2極ミニプラグ



- 直径3.5mm2極ミニプラグタイプのマイクでもマイク本体にバッテリーなどを搭載し、電源供給を必要としないマイクであれば使用できます。
- 設定の変更を行う必要があります。

参照▶ [「マイク／ヘッドホンを選択する（11ページ）」](#)

音声認識ソフトとあわせて使用する場合、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクを使用してください。

すべてのマイク、ヘッドホン、ヘッドセットに対応するものではありません。

2 | マイク／ヘッドホンを選択する

ご使用のマイク／ヘッドホンを選択します。

1. マイクまたはヘッドホンを接続する

2. 「Realtek Audio Console」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「Realtek Audio Console」と入力する
- ② 検索結果に表示される「Realtek Audio Console」をクリックする

3. 画面左側の「デバイス詳細設定」をクリックする

4. の横にあるプルダウンメニューからデバイスを選択する

5. 「閉じる」ボタン（）をクリックする

3 CD／DVD／ブルーレイディスクを使う（光学ドライブ）

*** 光学ドライブ搭載モデルのみ**

本製品には、次のドライブのいずれかが搭載されています。搭載されているドライブは、モデルによって異なります。

■ブルーレイディスクドライブ

CD、DVD、ブルーレイディスク（BD-R XL（3層）、BD-RE XL（3層）を含む）を使用できます。

■DVDスーパーマルチドライブ

CD、DVDを使用できます。

■DVD-ROMドライブ

CD、DVDの読み出しのみ可能です。書き込みはできません。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVD／ブルーレイディスクを使用するときに守ってほしいことが記述されています。CD／DVD／ブルーレイディスクを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1 使えるCD／DVD／ブルーレイディスクについて

使用できるCD／DVD／ブルーレイディスクの詳細と、書き込み速度については、次の説明を確認してください。

参照▶ 記録メディアについて『取扱説明書』

使用する記録メディアによっては、読み出しができない場合があります。

1 ブルーレイディスクドライブ搭載モデル

○：使用できる×：使用できない

	読み出し*1	書き込み回数
CD-ROM	○	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能*2
DVD-ROM	○	×
DVD-R*3	○*4	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能*2
DVD+R*5	○	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能*2
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能*2
BD-ROM	○	×
BD-R*6	○	1回
BD-RE*6	○	繰り返し書き換え可能*2

*1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

*2 実際に書き換えできる回数は、記録メディアの状態や書き込み方法により異なります。

*3 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL（DVD-R Dual Layer）を含みます。

*4 DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。

*5 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。

*6 特に書き分けのある場合を除き、本書で記載している「BD-R」には、BD-R DL（2層）、BD-R XL（3層）を含みます。また、本書で記載している「BD-RE」には、BD-RE DL（2層）、BD-RE XL（3層）を含みます。

2 DVDスーパーマルチドライブ搭載モデル

○：使用できる×：使用できない

	読み出し* ¹	書き込み回数
CD-ROM	○	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能* ²
DVD-ROM	○	×
DVD-R* ³	○* ⁴	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能* ²
DVD+R* ⁵	○	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能* ²
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能* ²

*1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

*2 実際に書き換えできる回数は、記録メディアの状態や書き込み方法により異なります。

*3 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除きDVD-R DL（DVD-R DualLayer）を含みます。DVD-R DLは、Format4での読み出し／書き込みをサポートしておりません。

*4 DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。

*5 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。

Memo 書き込みについて

- CD／DVD／ブルーレイディスクにデータを書き込むには、Windowsの書き込み機能を使用してください。
- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

お願い CD／DVD／ブルーレイディスクに書き込む前に

あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 CD／DVD／ブルーレイディスクに書き込む前に『取扱説明書』

2 DVD／ブルーレイディスクの映画や映像を見る

DVD／ブルーレイディスクをセットする方法については、次の説明を参照してください。

参照 [「CD／DVD／ブルーレイディスクをセットする／取り出す（16ページ）」](#)

1 sMedio True BD for dynabookで見る

＊ sMedio True BD for dynabook搭載モデルのみ

お願い

- DVD／ブルーレイディスクを再生する場合、「sMedio True BD for dynabook」を使用してください。市販ソフトなどを使用してDVD／ブルーレイディスクを再生すると、表示が乱れたり、再生できないことがあります。
- 「sMedio True BD for dynabook」を使う前に、次の説明を参照してください。

参照 [「sMedio True BD for dynabookの使用にあたって（41ページ）」](#)

再生方法

1. 「sMedio True BD for dynabook」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「sMedio True BD for dynabook」と入力する
- ② 検索結果に表示される「sMedio True BD for dynabook」をクリックする

ヘルプの起動方法

ヘルプを使用するには、インターネットに接続する必要があります。

1. 「sMedio True BD for dynabook」を起動後、画面左側の （ヘルプ）をクリックする

2 sMedio True DVD for dynabookで見る

＊ sMedio True DVD for dynabook搭載モデルのみ

お願い

- DVDを再生する場合、「sMedio True DVD for dynabook」を使用してください。市販ソフトなどを使用してDVDを再生すると、表示が乱れたり、再生できないことがあります。
- 「sMedio True DVD for dynabook」を使う前に、次の説明を参照してください。

参照 [「sMedio True DVD for dynabookの使用にあたって（43ページ）」](#)

再生方法

1. 「sMedio True DVD for dynabook」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「sMedio True DVD for dynabook」と入力する
- ② 検索結果に表示される「sMedio True DVD for dynabook」をクリックする

ヘルプの起動方法

ヘルプを使用するには、インターネットに接続する必要があります。

1. 「sMedio True DVD for dynabook」を起動後、画面左側の （ヘルプ）をクリックする

3 CD/DVD/ブルーレイディスクをセットする、取り出す

お願い CD/DVD/ブルーレイディスクの使用にあたって

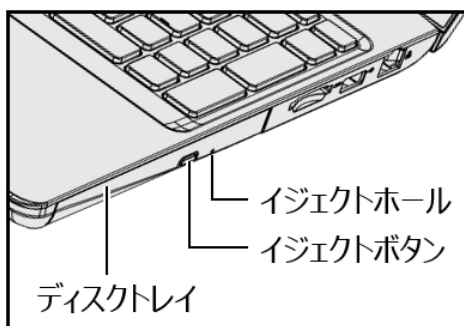
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 使えるCD/DVD/ブルーレイディスクの確認『取扱説明書』

Memo セットする前に確認しよう

- 傷ついたり汚れのひどいCD/DVD/ブルーレイディスクの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
 - CD/DVD/ブルーレイディスクの特性やCD/DVD/ブルーレイディスクへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
 - CD/DVD/ブルーレイディスクの種類によっては、取り出すときWindowsが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。よく確認してからCD/DVD/ブルーレイディスクをセットしてください。このWindowsの機能を無効にするには、次のように操作してください。
- ① タスクバーの「エクスプローラー」ボタン () をクリックする
「エクスプローラー」が起動します。
 - ② [PC] から光学ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリックする
光学ドライブのプロパティ画面が表示されます。
 - ③ [書き込み] タブで「共通の設定」ボタンをクリックする
 - ④ [共通の設定] 画面で「シングルセッションディスクを取り出すとき」と「マルチセッションディスクを取り出すとき」のチェックをはずし、[OK] ボタンをクリックする

1 光学ドライブの各部の名称



* 搭載されている光学ドライブによってイジェクトボタンなどの位置は異なります。

2 | セットする

1. パソコン本体の電源を入れる

Windowsが起動します。

2. イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

3. ディスクトレイを引き出す

CD/DVD/ブルーレイディスクをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4. 記録・再生面を下にして、CD/DVD/ブルーレイディスクの穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせて、上から押さえてセットする

ディスクトレイが反らないよう、もう一方の手で支えてください。

このとき、レンズおよびその周辺（ディスクトレイの裏側も含む）に触れないように注意してください。

「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください

5. 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し込む

3 | 取り出す

1. パソコン本体の電源が入っているか確認する

電源が入っていない場合は電源を入れてください。

2. イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

3. ディスクトレイを引き出す

CD/DVD/ブルーレイディスクをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4. ディスクトレイの中央凸部を軽く押さえながら、CD/DVD/ブルーレイディスクの端を上を持ち上げて取り出す

ディスクトレイが反らないよう、もう一方の手で軽く押さえてください。

このとき、レンズおよびその周辺（ディスクトレイの裏側も含む）に触れないように注意してください。

5. 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し込む

4 CD/DVD/ブルーレイディスクが出てこない場合

電源を切っているとき、または休止状態のときは、取り出しの操作をしてもCD/DVD/ブルーレイディスクは出てきません。電源を入れてから、CD/DVD/ブルーレイディスクを取り出してください。

次の場合は、電源が入っていても、すぐにCD/DVD/ブルーレイディスクは出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- 光学ドライブが動作しているとき

上記以外でCD/DVD/ブルーレイディスクが出てこない場合は、次のように操作してください。

● Windows動作中の場合

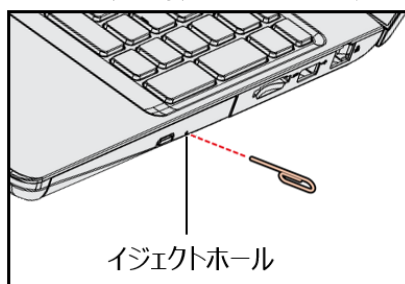
CD/DVD/ブルーレイディスクを使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンを押してください。

● パソコン本体の電源が入らない場合

⚠ 注意

- クリップなどを使う場合は、取り扱いに十分注意する
先端のとがった部分でけがをするおそれがあります。

電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。



* 搭載されているドライブによってイジェクトホールの位置は異なります。

4 メディアカードを使う（ブリッジメディアスロット）

1 使えるメディアカードについて

- SDメモリカード（SDHCメモリカード、SDXCメモリカードを含む） *1*2
- miniSDメモリカード（miniSDHCメモリカードを含む） *1*2
- microSDメモリカード（microSDHCメモリカード、microSDXCメモリカードを含む） *1*2
- マルチメディアカード *1*3

*1 すべての記録メディアの動作を保証するものではありません。

*2 SDIOカードには対応していません。

*3 SecureMMCには対応していません。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモリカード、miniSDメモリカード、microSDメモリカードを「SDメモリカード」と呼びます。

お願い

- miniSDメモリカード、microSDメモリカードは、市販のSDメモリカード変換アダプターが必要です。
アダプターを使用しないで直接挿入すると、取り出せなくなります。



参照 変換アダプターの装着や使用方法『メディアカードに付属している説明書』

*イラストは、実際のものとは異なる場合があります。

Memo

- コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。
- 新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。フォーマットとは、メディアカードを使えるようにすることです。フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

2 メディアカードをセットする／取り出す

お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 メディアカードを使うにあたって『取扱説明書』

1 セットする

1. メディアカードの表裏を確認し、コネクタ部分（金色の部分）を下にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。

参照 パソコン本体のブリッジメディアスロットの位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

2 取り出す

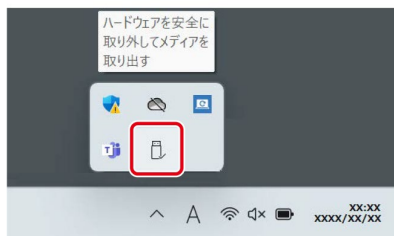
メディアカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアカードが壊れるおそれがあります。

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。ファイルやウィンドウを閉じてから、操作を行ってください。

1. メディアカードの使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す」アイコン（)をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、をクリックしてください。



(表示例)

- ② 表示されたメニューから「(取りはずすメディアカード) の取り出し」をクリックする
「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されます。

2. メディアカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

5 USB／Thunderbolt™対応機器を使う

USB／Thunderbolt™対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。また、初めて接続する周辺機器を認識すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。USB／Thunderbolt™対応機器すべての動作を保証するものではありません。



お願い USB対応機器の操作にあたって

- USBコネクタに接続するとパソコン本体が浮き上がるような分厚いUSB対応機器の場合は注意して使用してください。パソコン本体のUSBコネクタに力が加わり破損するおそれがあります。

USB Type-Aコネクタについて

USB Type-Aコネクタには、USB3.2 (Gen1) ／USB3.1 (Gen1) ／USB3.0／USB2.0／USB1.1対応機器を取り付けることができます。

Thunderbolt™ (USB Type-C™) コネクタについて

Thunderbolt™ (USB Type-C™) コネクタには、Thunderbolt™4／Thunderbolt™3／USB4™／USB3.2 (Gen2) ／USB3.2 (Gen1) ／USB3.1 (Gen2) ／USB3.1 (Gen1) ／USB3.0／USB2.0／USB1.1対応機器を取り付けることができます。

バッテリー充電中に、Thunderbolt™ (USB Type-C™) コネクタへ使用電流の大きなUSB対応機器を取り付けると、バッテリー充電中であっても、バッテリーを消費する場合があります。

■USBケーブルについて

Thunderbolt™ (USB Type-C™) コネクタに、市販のUSB対応機器を接続する場合は、パソコン本体に接続する側のプラグが、USB Type-C™のものを使用してください。もし、USB Type-C™ではない場合は、USB Type-C™変換アダプターなどが必要です。

参照▶ USB対応機器の詳細『USB対応機器に付属している説明書』

1 USBの常時給電と高速充電

1 USBの常時給電

パソコンがスリープ状態であれば常にUSBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給できます。また、⚡アイコンが付いているUSB Type-Aコネクタは、電源OFF、休止状態でも、パワーオフアンドチャージ機能を有効にすることで、USBバスパワーを供給できます。本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどの外部機器の使用および充電ができます。

＊ USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべてのUSB対応機器の使用および充電を保証するものではありません。

Memo USBの常時給電について

- バッテリー駆動でスリープのUSB常時給電を使用すると、バッテリーの残量にかかわらず、パソコンの状態によって自動的に休止状態へ移行する場合があります。

設定方法

パワーオフアンドチャージ機能はご購入時の設定では無効になっています。使用するには「dynabook セッティング」で「パワーオフアンドチャージ」を有効にする必要があります。

1. タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
2. 検索結果に表示される「dynabook セッティング」をクリックする
3. 「USB給電」で「パワーオフアンドチャージ」を「有効」に設定する

「USB給電について」の表示方法

パワーオフアンドチャージ機能についての詳細は、次の手順で確認できます。

1. USB対応機器を、パソコン本体のUSBコネクタに接続する
画面右下に、「パワーオフアンドチャージ」のメッセージが表示されます。
2. メッセージをクリックする
「USB給電について」画面が表示されます。

バッテリーモードの機能

バッテリー駆動しているときのパワーオフアンドチャージ機能を設定します。
バッテリー残量が指定した値以下になると、パワーオフアンドチャージは機能しません。
本機能を設定するには、あらかじめ「パワーオフアンドチャージ」を有効にしてください。

設定を変更するには、次のように操作してください。

1. タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する

2. 検索結果に表示される「dynabook セッティング」をクリックする

3. 「USB給電」で「パワーオフアンドチャージ」を「有効」に設定する

4. 「バッテリーモードの機能」で「有効」または「無効」を選択する

「有効」を設定すると、バッテリー駆動しているときにパワーオフアンドチャージが機能します。「無効」を設定すると、電源コードとACアダプターを接続した場合に限り、パワーオフアンドチャージが機能します。

5. バッテリー残量の下限を指定する

「バッテリーモードの機能」が有効な状態でスライダーバーを移動し、パワーオフアンドチャージが機能する、バッテリー残量の下限を指定してください。

2 USBの高速充電

⚡アイコンが付いているUSB Type-Aコネクタでは、接続したUSB対応機器を高速に充電できません。

＊ USBケーブルは本製品には含まれていません。別途ご使用の機器に付属の高速充電に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべてのUSB対応機器の充電を保証するものではありません。

■電源OFF、休止状態での高速充電について

接続するUSB対応機器とUSBケーブルが2.0A充電に対応している場合、パソコンが電源OFF、休止状態のときに、USB Type-AコネクタにUSB バスパワー（DC5V）を最大2.0Aまで供給し、短時間で充電できます。

本機能はご購入時の設定では無効になっています。

「パワーオフアンドチャージ」の設定を有効にすると本機能が有効になり、「自動モード」に設定されます。

参照 ▶ パワーオフアンドチャージを有効にする [「USBの常時給電（22ページ）」](#)

■システムON CDP充電モードでの高速充電について

電源ON、スリープ状態時に、USB Type-AコネクタにUSB/バスパワー（DC5V）を最大1.5Aまで供給し、短時間で充電できます。

本機能はご購入時の設定では有効になっています。

バッテリー駆動時間を長くしたいなどの理由で、本機能を使用しない場合は次の手順で本機能を無効にしてください。

1. タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
2. 検索結果に表示される「dynabook セッティング」をクリックする
3. 「USB給電」で「システムON CDP充電モード」を「無効」に設定する
設定後、再起動が必要な場合があります。

2 USB対応機器を取り付ける／取りはずす

1 取り付ける

1. USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。

参照▶ USB対応機器の詳細について『USB対応機器に付属している説明書』

2. USBケーブルのもう一方のプラグを、パソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

参照▶ パソコン本体のUSBコネクタの位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

2 取りはずす

USBフラッシュメモリやUSB接続のハードディスク／SSDなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

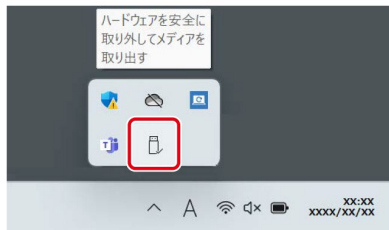
USB対応機器に保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取りはずしができません。ファイルやウィンドウを閉じてから、操作を行ってください。

1. USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の[ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す]アイコン（）をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、をクリックしてください。

この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順2に進んでください。



(表示例)

②表示されたメニューから[(取りはずすUSB対応機器)の取り出し]をクリックする
「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されます。

2. パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルのプラグを抜く

6 LAN機能を使う

1 有線LANで接続する

1 有線LANを使用する

LANケーブルを使用して、パソコンと通信回線を接続します。

2 LANケーブルを接続する

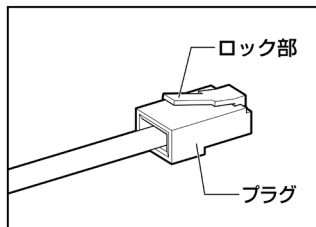
お願い LANケーブルの操作にあたって

- LANケーブルのプラグのロック部が大きいものや特殊なものは、パソコン本体のLANコネクタに差し込めない場合があります。
- 有線LANを使用中に、LANケーブルのプラグに触れないでください。
プラグに強い力が加わると、通信不良が起こったり、LANコネクタやプラグが破損するおそれがあります。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 LANケーブルの使用にあたって『取扱説明書 付録 1 ご使用にあたってのお願い』

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

LANケーブルは本製品には付属していません。市販のLANケーブルを購入してください。



1. パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2. LANケーブルのプラグを、パソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部の向きに注意して、差し込んでください。

参照 パソコン本体のLANコネクタの位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

3. LANケーブルのもう一方のプラグを、接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器により、以降の設定方法は異なります。

参照 光回線終端装置の設定について『プロバイダーなどから送られてくる資料』

参照 ブロードバンドルーターの設定について『ブロードバンドルーターに付属している説明書』

2 無線LANで接続する

＊ 無線LAN機能搭載モデルのみ

⚠ 警 告

- 植込み型医療機器（心臓ペースメーカー等）を装着しているかたは、植込み型医療機器の装着部位から15cm以上離す

電波により植込み型医療機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

- 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る

パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、航空機/医療用の電子機器に影響を与えることがあるので、無線通信機能および各種設定を無効にしたうえで、パソコンの電源を切ってください。

- ・ 無線通信機能は、次の手順でOFF にしてください。

① 通知領域の  または  アイコンをクリックする

② [機内モード] をクリックして、オンに切り替える

オンになると、通知領域に  アイコンが表示されます。

- ・ パソコンが自動的に復帰することがあるため、スリープや休止状態にしないでください。

- ・ 電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するようなソフトウェアを入れた場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

または、自動的に起動するような下記の設定をした場合も、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

Wake-up on LAN

Wake-up on LAN on Battery

Power on by AC

参照 『BIOS編 2章 設定項目 3 Power Management』

- ・ ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

参照 [「パネルオープンパワーオンを設定する（39ページ）」](#)

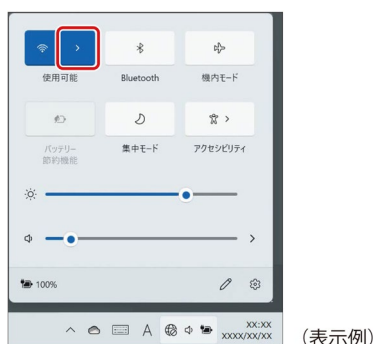
お願い 無線LANの操作にあたって

- Bluetooth®と無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断されることがあります。接続に支障がある場合は、今お使いの無線LANの無線周波数帯をBluetooth®と異なる無線周波数帯に設定して使用してください。

お願い ● 『取扱説明書』に、セキュリティに関する注意事項や使用上の注意事項を説明しています。無線LANを使用する場合は記述をよく読んで、セキュリティの設定を行ってください。

参照 デイリーケアとアフターケア 『取扱説明書 4章 サポート関連のご案内』

3. の右側の、> をクリックする

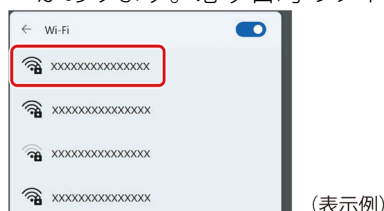


パソコンの周囲にあるワイヤレスネットワーク（無線LANアクセスポイント）のSSIDの一覧が表示されます。

以前接続したことがあるワイヤレスネットワークのセキュリティ情報がパソコンに記憶されている場合は、自動的に接続されます。

4. 接続するワイヤレスネットワークをクリックする

環境によっては、近隣で使用されているワイヤレスネットワークのSSIDが表示される場合があります。必ず目的のワイヤレスネットワークを選択してください。



5. [自動的に接続] をチェックし①、[接続] ボタンをクリックする②



6. ネットワークセキュリティキーを入力して①、[次へ] ボタンをクリックする②



以降は、画面の指示に従って操作してください。

選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティキーなどは、正しく設定してください。

正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。

参照 『無線LANアクセスポイントに付属している説明書』

パソコンがインターネットに接続できることを確認してください。

参照 無線LANの設定の詳細について『プロバイダーまたは回線事業者から送られてくる資料』、『無線LANアクセスポイントに付属している説明書』

7 Bluetooth®機能を使う

* Bluetooth®機能搭載モデルのみ

⚠ 警 告

- 植込み型医療機器（心臓ペースメーカー等）を装着しているかたは、植込み型医療機器の装着部位から15cm以上離す

電波により植込み型医療機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

- 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る

パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、航空機/医療用の電子機器に影響を与えることがあるので、無線通信機能および各種設定を無効にしたうえで、パソコンの電源を切ってください。

- ・ 無線通信機能は、次の手順でOFF にしてください。

①通知領域の  または  アイコンをクリックする

②「機内モード」をクリックして、オンに切り替える

オンになると、通知領域に  アイコンが表示されます。

- ・ パソコンが自動的に復帰することがあるため、スリープや休止状態にしないでください。

- ・ 電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するようなソフトウェアを入れた場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

または、自動的に起動するような下記の設定をした場合も、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

Wake-up on LAN

Wake-up on LAN on Battery

Power on by AC

参照 ▶ 『BIOS編 2章 設定項目 3 Power Management』

- ・ ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

参照 ▶ [「パネルオープンパワーオンを設定する（39ページ）」](#)

Memo

- Bluetooth®のバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth®対応機器があります。
- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth®対応機器と接続する

1. Bluetooth®対応機器の電源を入れ、Bluetooth®機能をONにする

参照▶ Bluetooth®対応機器の操作方法の詳細『Bluetooth®対応機器に付属している説明書』

2. パソコン本体の無線通信機能をONにする

機内モードがオン（通知領域に  が表示）の場合は、機内モードをオフにしてください。

- ① 通知領域の  をクリックする
- ② [機内モード] をクリックして、オフに切り替える

機内モードオフ（通知領域には  または  が表示）

：無線通信機能ON

機内モードオン（通知領域には  が表示）

：無線通信機能OFF

3. Bluetooth®対応機器を設定する

- ① [スタート] ボタン () をクリックする
- ② [設定] をクリックする
- ③ [Bluetoothとデバイス] をクリックする
[Bluetoothとデバイス] 画面が表示されます。
- ④ [Bluetooth] を [オン] に設定する
[オン] にすると、パソコン本体のBluetooth®機能がONになります。
- ⑤ [デバイスの追加] をクリックする
以降は、画面の指示に従って設定してください。

8 ホームページを見る

ホームページの閲覧方法について説明しています。

1 ホームページを閲覧しよう

ホームページを見るために必要なアプリケーションのことを、「ブラウザ」と呼びます。本製品では、「Microsoft Edge（マイクロソフトエッジ）」というブラウザを使用します。ホームページのことを、「Webページ」や「Webサイト」と呼ぶこともあります。

特定のホームページを見たいときは、おもに次の方法で行います。

- ホームページを検索する
キーワードを入力してホームページを検索します。
該当した候補の中から見たいホームページを選択します。
- URLを入力する
URLとは、インターネット上にあるホームページの場所を特定する情報です。
- URLを入力すると、見たいホームページが直接表示されます。



1 Microsoft Edgeを使用する

起動方法

1. タスクバーの [Microsoft Edge] ボタン (🌐) をクリックする
「Microsoft Edge」が起動します。

9 メール機能を使う

本製品のメール機能について説明します。



■メール機能を使うためのアプリケーション

本製品には、メールアプリケーションとして「Outlook」や、モデルにより「Outlook (classic)」が用意されています。

■メールアドレスの取得について

メールを送信・受信するためには、メールアドレスが必要になります。

メールアドレスは、プロバイダーなどのメールサービスに申し込んで取得したり、無料のフリーメールアドレスを使用することができます。

1 Windowsのメール機能について

本製品では、メールアプリケーションとして「Outlook (Outlook for Windows)」をご利用いただけます。なお、機種や環境によっては、Officeの「Outlook (classic)」でもメール機能をご利用いただけます。

以下は、アイコンの表示例です。



Outlook (new)



Outlook

1 「Outlook」 (Outlook for Windows)

起動方法

- ① タスクバーにある検索ボックスに「Outlook」と入力する
 - ② 検索結果に表示される「Outlook」をクリックする
- 以降は、画面の指示に従って操作してください。

参照 お問い合わせ先『取扱説明書 4章 1 お問い合わせ先 (OS/アプリケーション) 』

Memo

- 「Outlook」 (Outlook for Windows) の機能については、以下マイクロソフト社のホームページでもご紹介しています。

参照 『Windows 用の新しい Outlook の概要 - Microsoft サポート』

2 「Outlook (classic)」

「Outlook (classic)」は、予定表や連絡先などの管理を行うことができる、メールソフトの機能を持ったアプリケーションです。

起動方法

- ① タスクバーにある検索ボックスに「Outlook (classic)」と入力する
- ② 検索結果に表示される「Outlook (classic)」をクリックする

Microsoft アカウントが表示されたら、接続してください。「Outlook (classic)」が起動します。

以降は、画面の指示に従って操作してください。

「Outlook (classic)」についてのお問い合わせは、「Office」のお問い合わせ先までご連絡ください。

参照 お問い合わせ先『取扱説明書 4章 1 お問い合わせ先 (OS／アプリケーション)』

参照 Officeのセットアップ『準備編 1章 2 初めて電源を入れてWindowsセットアップが終了したら』

10 便利な機能

1 dynabook セッティングを使う

「dynabook セッティング」では、次の機能をWindows上で設定変更できます。

- ecoユーティリティ
- USB給電
- キーボード
- 起動オプション
- システムパスワード
- 高度な設定（各種デバイスおよび機能の設定）

* 搭載している機能または設定変更できる機能は、モデルによって異なります。

複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

設定方法

1. 「dynabook セッティング」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
- ② 検索結果に表示される「dynabook セッティング」をクリックする

2. 画面左側から機能を選択し、画面右側で各設定を行う

Memo

- システムパスワード（ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワード）を登録している場合、「dynabook セッティング」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。パスワードで認証を行ってください。

ヘルプの起動方法

1. 「dynabook セッティング」を起動後、[ホーム] で [サポートする機能について] をクリックする

2 ecoユーティリティで省電力の設定をする

「ecoユーティリティ」は、節電への貢献を総合的にサポートします。

■ecoモード

「ecoモード」をオンにすると、当社の推奨する設定によって、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力をおさえます。

■貢献履歴

消費電力の低減によって、どれだけ環境の保護に貢献できたかが、イメージやグラフなどで表示されます。

一日ごと、または月ごとに確認できます。

■dynabook省電力設定

「dynabook省電力設定」を有効にすると、Windowsのパワースライダーのモードに合わせて、本製品に適した電力制御を行います。

Memo ●「ecoモード」がオンのときは、常に省電力制御を行います。

■バッテリー充電モード

バッテリー充電モードを選択します。パソコンのご使用状況に合った充電モードを選択してください。

Auto／80％／70％の充電モードは、バッテリーの機能低下を遅らせる充電方式です。満充電での容量が少ないため、バッテリー駆動時間は短くなります。

■ピークシフト

昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現します。たとえば夏期の日中など電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に充電したバッテリーでパソコンを動作させる電源管理機能を備えています。

ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。

Memo ● ピークシフトをご利用の場合、自動的にバッテリー駆動に切り替わり、CPUやグラフィックアクセラレーターの性能が十分に発揮されない場合があります。
映像や音楽を視聴する場合、ピークシフトを一時的に無効にすることをおすすめします。
● 表示されるメニューは、モデルにより異なります。

起動方法

1. 「dynabook セッティング」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
- ② 検索結果に表示される [dynabook セッティング] をクリックする

2. [ecoユーティリティ] で各項目を設定する

ヘルプの起動方法

1. [ecoユーティリティ] 画面で [ecoユーティリティについて詳しくはここをクリックしてください] をクリックする

「ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

3 バッテリーを長持ちさせる

次の手順に従って「バッテリー充電モード」を設定することにより、バッテリーの充電量をおさえて、バッテリーの機能低下を遅らせることができます。

パソコンの電源コードとACアダプターを、コンセントに接続したまま使用される方におすすめです。

ただし、バッテリーの充電量が少なくなるため、バッテリーでの駆動時間は短くなります。

1 バッテリー充電モードを設定する

「dynabook セッティング」の「バッテリー充電モード」で、「100% 充電モード」以外を選択すると、バッテリーの機能低下を遅らせることができます。

参照 ▶ バッテリー充電モードについて『取扱説明書 1章 7 バッテリーについて』

1. 「dynabook セッティング」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
- ② 検索結果に表示される [dynabook セッティング] をクリックする

2. 「ecoユーティリティ」の [バッテリー充電モード] で、[100% 充電モード] 以外に設定する

Memo

- モデルによっては、ピークシフト期間中やバッテリー充電モードで規定値以上充電されると、バッテリーへの充電は一時的に停止されます。

2 Adaptive System Optimizationを設定する

＊「Adaptive System Optimization」 搭載モデルのみ

AIがオンライン会議アプリの起動を検出すると、バッテリーセーブ機能を最適化しPCの消費電力を抑制することができます。

設定方法

1. 「dynabook セッティング」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
 - ② 検索結果に表示される [dynabook セッティング] をクリックする
- [高度な設定] の [パフォーマンス設定] の右の ▼ をクリックし、[Adaptive System Optimization] の [オンラインミーティングの最適化] を、[有効] に設定する

4 ディスプレイの消費電力をおさえる

本体ディスプレイに表示する映像のコントラストと明るさを自動的に調整することにより、パソコンの消費電力をおさえることができます。初期設定ではバッテリー駆動の場合に消費電力をおさえる設定ですが、電源コードとACアダプターを接続している場合でも、次の手順で設定できます。

1. [スタート] ボタン () をクリックする

2. [設定] をクリックする

3. [システム] → [ディスプレイ] をクリックする

4. [明るさ] をクリックする

5. [コンテンツに基づいて明るさを変更する] 画面にて、[バッテリー使用時のみ] を [常時] に変更する

5 パネルオープンパワーオンを設定する

パネルオープンパワーオン機能は、ディスプレイを開くと自動的にパソコンの電源が入る機能です。本機能は、次の手順で設定できます。

設定方法

1. 「dynabook セッティング」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
- ② 検索結果に表示される「dynabook セッティング」をクリックする

2. [起動オプション] をクリック

3. [パネルオープンパワーオン] の設定を[有効]にする

6 dynabook オンラインミーティングアシストを使う

＊ dynabook オンラインミーティングアシスト搭載モデルのみ

「dynabook オンラインミーティングアシスト」は、パソコンのWebカメラ映像や音声など、オンライン会議におけるエクスペリエンスを補助する機能が利用できます。
購入時の状態ではオフに設定されていますので、使用する場合はオンに切り替えてください。

起動方法

1. 「dynabook オンラインミーティングアシスト」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「dynabook オンラインミーティングアシスト」と入力する
- ② 検索結果に表示される「dynabook オンラインミーティングアシスト」をクリックする

初回起動時にカメラ使用の許可に関するメッセージが表示された場合は、必要に応じてカメラの設定を行ってください。

Memo

- ミーティング カメラエフェクトは、次のときに正しく機能しない場合があります。
 - ・ 対象者が大きく動いている場合
 - ・ パソコンのWebカメラが暗い環境にある場合
 - ・ 対象者の顔を明確に検出できない場合（マスクで顔を覆っているなど）
 - ・ 対象者がカメラプレビューウィンドウの端にいる場合
 - ・ パソコンのWebカメラに近すぎる場合
 - ・ パソコンのWebカメラから遠すぎる場合
 - ・ 周囲と対象者の顔に明確な明るさの違いがない場合
 - ・ 強い逆光環境にある場合
 - ・ 画面を回転している場合
- ミーティング カメラエフェクトを安定して使用するには、次のことを試してください。
 - ・ パソコンに電源コードとACアダプターを接続する
 - ・ 使用していないほかのアプリケーションを閉じる
 - ・ 使用するカメラエフェクトの種類を減らす
- ミーティング カメラエフェクトがオンになっていると、Webカメラを使用するほかのアプリケーションの機能が正しく動作しない場合があります。その場合は、ミーティング カメラエフェクトをオフにしてください。
- 本アプリケーションをアンインストールする前に、すべてのカメラエフェクトをオフにしてください。
アンインストール後にカメラエフェクトを変更できません。

7 sMedio True BD for dynabookの使用にあたって

＊ sMedio True BD for dynabook搭載モデルのみ

＊ 表示装置は「本体ディスプレイ、テレビまたは外部ディスプレイ」を示します。

本製品で「sMedio True BD for dynabook」を使用する場合は、次の内容をご確認の上、ご使用ください。

Memo

- パソコンの画面をテレビや外部ディスプレイに表示するには、HDMI[®]出力端子やThunderbolt[™] (USB Type-C[™]) コネクタが搭載されている必要があります。
テレビや外部ディスプレイへの表示に対応しているパソコンの構成は次のとおりです。

接続先	対応しているパソコンの構成
RGB端子を搭載したテレビまたは外部ディスプレイ	ポート拡張ユニット USB Type-C [™]
	ポート拡張アダプタUSB Type-C [™] RGB
	ポート拡張アダプタUSB Type-C [™] RGB LAN
HDMI [®] 入力端子を搭載したテレビまたは外部ディスプレイ	HDMI [®] 出力端子
	ポート拡張ユニット USB Type-C [™]
USB Type-C [™] を搭載したテレビまたは外部ディスプレイ	Thunderbolt [™] (USB Type-C [™]) コネクタ

＊ 「DVD」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-VideoフォーマットまたはDVD-VRフォーマットで記録されたディスクを示します。

■「sMedio True BD for dynabook」について

- 「sMedio True BD for dynabook」で映像を再生する前に、ほかのアプリケーションを終了してください。また、再生中にほかのアプリケーションを起動したり、不要な操作は行わないでください。
 - 「sMedio True BD for dynabook」の起動中は、スリープ、休止状態を実行しないでください。
 - 「sMedio True BD for dynabook」の起動中は、コンピューターをロック状態に移行する操作（ + キーを押す）をしないでください。
 - 「sMedio True BD for dynabook」で再生している映像は、本体ディスプレイまたは本製品に接続したテレビや外部ディスプレイにのみ表示できます。
 - 「sMedio True BD for dynabook」の起動中は、解像度の切り替えを行わないでください。
 - テレビまたは外部ディスプレイに表示するときは、アプリケーションを起動する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、複製表示（本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイの2つの表示装置それぞれに同じ映像を表示すること）は、再生するタイトルや接続の状態によっては、正しく表示できません。
 - テレビや外部ディスプレイ側の解像度やリフレッシュレートが高い場合、再生画像が正常に表示されないことがあります。その際はいったん再生を終了し、テレビや外部ディスプレイ側の解像度、リフレッシュレートや色数を下げてください。
- ＊ 使用するDVDまたはブルーレイディスクのタイトルによっては、コマ落ち、音飛びおよび映像と音声の同期ずれが発生する場合があります。

■ブルーレイディスクの再生について

- ブルーレイディスクのタイトルでは、再生可能な地域（リージョン）が指定されているものがあります。ブルーレイディスクで指定されているリージョンと「sMedio True BD for dynabook」のリージョンの設定が一致していない場合、再生できません。
ブルーレイディスクを再生する前に、必ずリージョン設定をしてください。初回設定後は、4回まで変更できます。
- 本製品のブルーレイディスク再生機能は著作権保護技術AACS（Advanced Access Content System）に対応しています。ブルーレイディスクを継続的にお楽しみいただくためには、本機に含まれているAACSキーの更新が必要となります。なお、更新の際にはインターネット接続が必要です。
- 購入から18カ月間は無料でAACSキーを更新いただけます。18カ月を超えての更新につきましては、当社の定める条件によります。
- 「sMedio True BD for dynabook」でブルーレイディスクの再生映像をテレビや外部ディスプレイでご覧になるには、HDCP対応のHDMI®入力端子を搭載したテレビやディスプレイが必要です。
RGBコネクタに接続した外部ディスプレイには、表示させることができません。
- ブルーレイディスク再生時は、必ず電源コードとACアダプターを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズに再生できない場合があります。
- ブルーレイディスク再生機能はコンテンツのプログラムに従って作動しますので、コンテンツによって、操作方法、操作時の画面、効果音、アイコンなどの機能・動作は、それぞれ異なる場合があります。これらの詳細は、『コンテンツに付属している説明書』を参照するか、発売メーカーに直接お問い合わせください。
- BD-Jタイトルでは、「sMedio True BD for dynabook」のショートカットキーが使用できません。
- BD-Jタイトルでは、レジューム再生機能が使用できません。
- ブルーレイディスクインタラクティブ機能はコンテンツやネットワークの状況によっては、動作しない場合があります。

参照 ▶ その他の注意について『「sMedio True BD for dynabook」のヘルプ』

■DVDの再生について

- Region（リージョン）コードは4回まで変更できますが、通常は出荷時の設定のまま利用してください。出荷時の状態では、Regionコードが「2」に設定されているため、Regionコードが「2」または「ALL」のDVD-Videoをご使用ください。
- 家庭用DVDレコーダーで録画した、ファイナライズされていないDVDはパソコンで再生できない場合があります。
- DVD再生時は、電源コードとACアダプターの接続をおすすめします。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができないことがあります。
- 「sMedio True BD for dynabook」でDVDの再生映像をテレビや外部ディスプレイでご覧になるには、RGBコネクタ、HDCP対応のHDMI®入力端子、またはThunderbolt™（USB Type-C™）コネクタを搭載した外部ディスプレイやテレビが必要です。

参照 ▶ その他の注意について『「sMedio True BD for dynabook」のヘルプ』

8 sMedio True DVD for dynabookの使用にあたって

＊ sMedio True DVD for dynabook搭載モデルのみ

＊ 表示装置は「本体ディスプレイ、テレビまたは外部ディスプレイ」を示します。

本製品で「sMedio True DVD for dynabook」を使用する場合は、次の内容をご確認の上、ご使用ください。

Memo

- パソコンの画面をテレビや外部ディスプレイに表示するには、HDMI[®]出力端子やThunderbolt[™] (USB Type-C[™]) コネクタが搭載されている必要があります。
テレビや外部ディスプレイへの表示に対応しているパソコンの構成は次のとおりです。

接続先	対応しているパソコンの構成
RGB端子を搭載したテレビまたは外部ディスプレイ	ポート拡張ユニット USB Type-C [™]
	ポート拡張アダプタUSB Type-C [™] RGB
	ポート拡張アダプタUSB Type-C [™] RGB LAN
HDMI [®] 入力端子を搭載したテレビまたは外部ディスプレイ	HDMI [®] 出力端子
	ポート拡張ユニット USB Type-C [™]
USB Type-C [™] を搭載したテレビまたは外部ディスプレイ	Thunderbolt [™] (USB Type-C [™]) コネクタ

＊ 「DVD」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-VideoフォーマットまたはDVD-VRフォーマットで記録されたディスクを示します。

■「sMedio True DVD for dynabook」について

- 「sMedio True DVD for dynabook」で映像を再生する前に、ほかのアプリケーションを終了してください。また、再生中にほかのアプリケーションを起動したり、不要な操作は行わないでください。
 - 「sMedio True DVD for dynabook」の起動中は、スリープ、休止状態を実行しないでください。
 - 「sMedio True DVD for dynabook」の起動中は、コンピューターをロック状態に移行する操作（ + キーを押す）をしないでください。
 - 「sMedio True DVD for dynabook」で再生している映像は、本体ディスプレイまたは本製品に接続したテレビや外部ディスプレイにのみ表示できます。
 - 「sMedio True DVD for dynabook」の起動中は、解像度の切り替えを行わないでください。
 - テレビまたは外部ディスプレイに表示するときは、アプリケーションを起動する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、複製表示（本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイの2つの表示装置それぞれに同じ映像を表示すること）は、再生するタイトルや接続の状態によっては、正しく表示できません。
 - テレビや外部ディスプレイ側の解像度やリフレッシュレートが高い場合、再生画像が正常に表示されないことがあります。その際はいったん再生を終了し、テレビや外部ディスプレイ側の解像度、リフレッシュレートや色数を下げてください。
- ＊ 使用するDVDのタイトルによっては、コマ落ち、音飛びおよび映像と音声の同期ずれが発生する場合があります。

■DVDの再生について

- Region（リージョン）コードは4回まで変更できますが、通常は出荷時の設定のまま利用してください。出荷時の状態では、Regionコードが「2」に設定されているため、Regionコードが「2」または「ALL」のDVD-Videoをご使用ください。
- 家庭用DVDレコーダーで録画した、ファイナライズされていないDVDはパソコンで再生できない場合があります。
- DVD再生時は、電源コードとACアダプターの接続をおすすめします。省電力機能が働くと、スムーズに再生できないことがあります。
- 「sMedio True DVD for dynabook」でDVDの再生映像を外部ディスプレイやテレビでご覧になるには、RGBコネクタ、HDCP対応のHDMI®入力端子、またはThunderbolt™（USB Type-C™）コネクタを搭載した外部ディスプレイやテレビが必要です。

参照 ▶ その他の注意について『「sMedio True DVD for dynabook」のヘルプ』

9 メディアおよびハードディスク／SSDへの書き出し

＊DVDへの書き込み（保存）は、ブルーレイディスクドライブ、またはDVDスーパーマルチドライブ搭載モデルのみ

＊ブルーレイディスクへの書き込み（保存）は、ブルーレイディスクドライブ搭載モデルのみ

記録メディアへの書き込み、本体のハードディスク／SSDへの書き出しを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込み／書き出しに失敗するおそれがあります。また、光学ドライブへのショックなど本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込み／書き出しに失敗することがあります。

■書き込み／書き出しを行うにあたって

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを使用してパソコン本体をコンセントに接続してご使用ください。
- 書き込み中に、パソコン本体とコンセントを接続している電源コードとACアダプターを抜かないでください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、パソコンの電源を切ったり、スリープ／休止状態／再起動を実行しないでください。
- マウスを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作は行わないでください。
- メディアカードのセット／取り出しや、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 メディアカードを使う [「メディアカードを使う（ブリッジメディアスロット）（19ページ）」](#)

- パソコン本体から、携帯電話およびほかの無線通信装置を離してください。
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・音楽や映像の再生アプリケーション
 - ・スクリーンセーバー
 - ・ウイルスチェック／セキュリティ対策ソフト
 - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては動作の不安定やデータの破損の原因となるので、使用しないことを推奨します。
- メディアカード、USBフラッシュメモリ、USB接続などのハードディスクドライブなど、本体のハードディスク／SSD以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本体のハードディスク／SSDに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本体のハードディスク／SSDに保存してから書き込みを行ってください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- DVD／ブルーレイディスクに書き込みを行うときは、市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。
- DVD／ブルーレイディスクに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

■作成したDVDについて

- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDレコーダーやパソコンなどでは再生できないことがあります。また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれの記録メディアの読み取りに対応している機器を使用してください。
- AVCHDフォーマットで作成したDVDは、AVCHDフォーマットの再生に対応した機器で再生してください。AVCHDフォーマットに対応していない機器にセットすると、DVDが取り出せなくなるおそれがあります。
DVDが取り出せない場合は、『機器に付属している説明書』を確認するか、機器のメーカーにお問い合わせください。
- 作成したDVDを本製品で再生するときは、「sMedio True BD for dynabook」、「sMedio True DVD for dynabook」を使用してください。
「メディア プレーヤー」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。

■作成したブルーレイディスクについて

- 作成したブルーレイディスクは、一部の家庭用ブルーレイディスクプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーやパソコンなどでは再生できないこともあります。
- 作成したブルーレイディスクを本製品で再生するときは、「sMedio True BD for dynabook」を使用してください。その他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。

■映像データをDVD／ブルーレイディスクに書き込む前に

- DVD／ブルーレイディスクに書き込みを行うときには、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。なお、再生する機器に応じて、その機器に付属している説明書で推奨される記録メディアを使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、光学ドライブへのショックなど本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。
- 本製品に付属している「CyberLink PowerDirector for dynabook」以外の映像データライティングソフトウェアは動作保証していません。

10 CyberLink PowerDirector for dynabookの使用にあたって

＊ CyberLink PowerDirector for dynabook搭載モデルのみ

本製品で「CyberLink PowerDirector for dynabook」を使用する場合は、次の内容をご確認の上、ご使用ください。

- 「CyberLink PowerDirector for dynabook」はコンピューターの管理者アカウントで使用してください。
- 本製品にインストールされていない、その他の映像データを取り込むソフトウェアは使用しないでください。
- 「CyberLink PowerDirector for dynabook」を使用中は、必ず電源コードとACアダプターを接続してください。
- 「CyberLink PowerDirector for dynabook」を使用中は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。
- 映像を再生するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示されないことがあります。編集中はほかのアプリケーションを終了してください。
- 著作権保護されているコンテンツは編集、再生できません。
- 「CyberLink PowerDirector for dynabook」を使用中は、スリープ、休止状態を実行しないでください。
- パソコンを起動してすぐに「CyberLink PowerDirector for dynabook」を操作しないでください。また、ハードディスクやメディアへのアクセス中は、「CyberLink PowerDirector for dynabook」を操作しないでください。
- DVD-AudioやAudio CD、miniDVD、Video CDを作成することはできません。
- DVD／ブルーレイディスクに書き込んでいる間は、ほかのアプリケーションを終了してください。
- 「CyberLink PowerDirector for dynabook」を使用中は、スクリーンセーバーのような処理に負荷のかかるアプリケーションを実行しないでください。
- 「CyberLink PowerDirector for dynabook」の動作中は、画面の解像度の変更などは行わないでください。
- 「CyberLink PowerDirector for dynabook」では、ソース（映像ファイル）のビットレートによっては、1枚に圧縮できない場合があります。
- DVD／ブルーレイディスクへ書き込みを行うには、映像データのサイズの約2.5倍以上の空き容量がハードディスクに必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。使用する映像ファイルや編集のしかたによって、必要な空き容量が異なります。
- DVD／ブルーレイディスクに映像データを書き込む場合、映像データの大きさや編集のしかたによってはデータの変換に数時間かかることがあります。
- ご使用の環境によっては、高画質な映像の再生において、コマ落ちや音飛び、または映像と音声のずれ（同期ずれ）が発生する場合があります。
- 高解像度や高ビットレートの映像を書き出した場合、ご使用の機器性能や状態によっては、再生時にコマ落ちや音飛び、または映像と音声のずれ（同期ずれ）が発生する場合があります。
- ディスプレイの解像度が「1,024 × 768」より小さい場合は、「CyberLink PowerDirector for dynabook」を起動することができません。その場合は、解像度を大きくしてから再度アプリケーションを起動してください。
- お使いの環境によっては、Webカメラから映像を取り込むことができない場合があります。
- 「CyberLink PowerDirector for dynabook」で作成した4Kコンテンツが、ほかのプレーヤーでは再生できない場合があります。

2章 認証機能を設定する

本製品を使用するときの、さまざまな認証機能の設定方法について説明しています。

1 システムパスワードを設定する

システムパスワードには次のものがあります。

- ユーザーパスワード（BIOSパスワード）
電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、パスワードを入力しないと起動しません。
- スーパーバイザーパスワード（BIOSパスワード）
BIOSセットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかのパソコン本体の設定について制限をかけられます。スーパーバイザーが使用します。
- HDD／SSDパスワード
本体のハードディスク／SSDを保護します。電源を入れるときにHDD／SSDパスワードを入力しないと起動しません。万が一パスワードを忘れた場合、永久にハードディスク／SSDを使用できなくなる、非常に強固なセキュリティです。
HDD／SSDパスワードには、HDD／SSDユーザーパスワードとHDD／SSDマスターパスワードがあります。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、dynabook あんしんサポート 修理相談窓口に連絡してください。
HDD／SSDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスク／SSDは永久に使用できなくなりますので、有料にてハードディスク／SSDを交換します。
その他のパスワードの場合は、有料にてパスワードを解除します。その際、パスワードの種類によっては、お客様のデータが失われる場合があります。
またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要です。

Memo

- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

パスワードに使用できる文字

ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、HDD／SSDパスワードに使用できる文字は次のとおりです。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
	数字（半角）	0123456789
	記号の一部（半角）	;,.,.（スペース）など
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none">・全角文字（2バイト文字）・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など・記号の一部（半角） 【例】 （バーチカルライン） _（アンダーバー） ¥（エン）など・ほかのキー（SHIFTキーや CAPSLOCK英数キーなど）と同時に使用しないと入力できない文字	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワードを設定する

ユーザーパスワードは、「dynabook セッティング」で設定します。

Memo

- ユーザーパスワードは、BIOSセットアップの次の項目から設定することもできます。
 - ・ [Security] メニューの [BIOS Password] の [User]

参照 BIOSセットアップの詳細『BIOS編 2章 設定項目 2 Security』

1 ユーザーパスワードの登録

ユーザーパスワードを登録する手順を説明します。

1. 「dynabook セッティング」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
- ② 検索結果に表示される [dynabook セッティング] をクリックする

2. [システムパスワード] で [登録] ボタンをクリックする



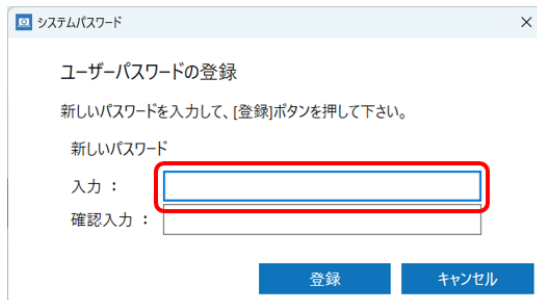
(表示例)

[ユーザーパスワードの登録] 画面が表示されます。

3. [入力:] にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字について [「パスワードに使用できる文字 \(49ページ\)」](#)



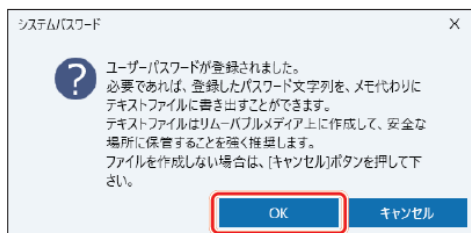
(表示例)

4. [確認入力:] にもう一度パスワードを入力する

5. [登録] ボタンをクリックする

6. パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。



(表示例)

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。
[OK] ボタンをクリックすると、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。

7. パスワードファイルを保存する

パスワードファイルは、USBフラッシュメモリなどの記録メディアに保存することを強くおすすめします。

8. 必要に応じて、[パスワードの注釈:]を入力する

[パスワードの注釈] にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。

パスワード文字列そのものを登録しないでください。

使用できる文字列はユーザーパスワードと同様です。

参照 ▶ パスワードに使用できる文字について [「パスワードに使用できる文字 \(49ページ\)」](#)

9. [適用] ボタンをクリックする

お願い ● パスワードファイルを保存した記録メディアは、安全な場所に保管してください。

Memo ● パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。
● ユーザーパスワードを登録すると、以後「dynabook セッティング」を起動する際に、認証画面が表示されます。パスワードで認証を行ってください。

2 ユーザーパスワードの変更

ユーザーパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

1. 「dynabook セッティング」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
- ② 検索結果に表示される「dynabook セッティング」をクリックする

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

2. [システムパスワード] で [変更] ボタンをクリックする

[ユーザーパスワードの変更] 画面が表示されます。

3. [入力:] に新しいパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字について [「パスワードに使用できる文字 \(49ページ\)」](#)

4. [確認入力:] にもう一度新しいパスワードを入力する

5. [変更] ボタンをクリックする

確認のメッセージが表示されます。

6. メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

ここでは、まだパスワードは変更されていないので、手順 3、4 で入力したものではなく、その前に登録しておいたパスワードを入力してください。

パスワードが変更されます。

変更したパスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

7. パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

参照 ユーザーパスワードの登録の手順6 [「パスワードファイルを作成する \(50ページ\)」](#)

3 ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1. 「dynabook セッティング」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
- ② 検索結果に表示される「dynabook セッティング」をクリックする

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

2. 「システムパスワード」で「削除」ボタンをクリックする

「ユーザーパスワードの削除」画面が表示されます。

3. 「削除」ボタンをクリックする

4. メッセージの内容を確認し、「はい」ボタンをクリックする

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。
確認のメッセージが表示されます。

5. 「OK」ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

2 スーパーバイザーパスワードを設定する

スーパーバイザーパスワードは「dynabook セッティング」で設定します。

Memo

- 先にユーザーパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザーパスワードの登録はできません。
スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードを両方登録する場合は、一度ユーザーパスワードを削除し、スーパーバイザーパスワードを登録してからもう一度ユーザーパスワードを登録してください。
- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。
- スーパーバイザーパスワードは、BIOSセットアップの次の項目から設定することもできます。
 - ・ [Security] メニューの [BIOS Password] の [Supervisor]

参照 BIOSセットアップの詳細『BIOS編 2章 設定項目 2 Security』

1 スーパーバイザーパスワードの登録、変更、削除

1. 「dynabook セッティング」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
- ② 検索結果に表示される [dynabook セッティング] をクリックする

パスワードを登録している場合は、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

2. [システムパスワード] で画面右側をスクロールし、[高度な設定] の右の ▼ をクリックする

スーパーバイザーパスワードが設定できるようになります。

スーパーバイザーパスワードの登録、変更、削除方法は、ユーザーパスワードと同様です。

なお、スーパーバイザーパスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。

2 一般ユーザーの操作を制限する

スーパーバイザーパスワードを登録すると、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーに対して、BIOSセットアップの管理などに制限を加えることができます。

スーパーバイザーパスワードを登録した状態で、次の手順を実行してください。

1. 「dynabook セッティング」を起動する

認証画面が表示されるので、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

2. [システムパスワード] で画面右側をスクロールし、[高度な設定] の右の ▼ をクリックする

3. [ユーザーポリシー] の [設定] ボタンをクリックする

4. 必要に応じて項目のチェックをはずす

5. [設定] ボタンをクリックする

6. メッセージが表示された場合は内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

認証画面が表示されるので、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

7. [OK] ボタンをクリックする

3 HDD／SSDパスワードを設定する

HDD／SSDパスワードは、BIOSセットアップで設定します。

参照 BIOSセットアップの詳細『BIOS編 2章 設定項目 2 Security』

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万が一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスク／SSDは永久に使用できなくなりますので、有料にてハードディスク／SSDを交換します。
ハードディスク／SSDが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
HDD／SSDパスワードの設定については、この点を十分にご注意ください。うえでご使用ください。

2 HDD／SSDパスワードの種類

HDD／SSDパスワードには、次の2種類のパスワードがあります。

HDD／SSDユーザーパスワードのみを登録することはできません。

■HDD／SSDユーザーパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。

■HDD／SSDマスターパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。

HDD／SSDマスターパスワードはHDD／SSDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDD／SSDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDD／SSDマスターパスワードを入力してハードディスク／SSDにアクセスできます。

組織などでパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザーに対してパソコン本体を配付する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでHDD／SSDマスターパスワードと仮のHDD／SSDユーザーパスワードを設定しておく必要があります。

4 パスワード入力時の注意

スーパーバイザーパスワード、ユーザーパスワード、HDD／SSDパスワードを入力するとき、続けて3回間違えると認証エラーとなり、自動的に電源が切れます。

パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。

この場合は、電源を入れ直して、再度パスワードを入力してください。

お願い

- パスワード入力画面で認証エラーが発生して電源が切れると、タイマー*1、LAN*1、USB*1からの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。
頻繁に認証エラーが発生し電源が切れるときは、スーパーバイザーパスワード、ユーザーパスワード、HDD／SSDパスワードの設定を解除することをおすすめします。

*1 本機能を搭載しているモデルのみ

2 Microsoft アカウントのパスワードやPIN、 またはWindowsパスワード

Windowsにサインインするためのパスワード／暗証番号として、WindowsパスワードとPINが用意されています。

指紋認証や顔認証を使用する場合、あらかじめ、WindowsパスワードとPINの設定を行っておく必要があります。

お願い

- Windowsパスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、dynabook あんしんサポート 使いかた相談窓口に連絡してください。

Memo

- PINを忘れてしまったときは、Windowsパスワードでサインインしてください。
- WindowsパスワードやPINを登録した場合は、忘れたときのために必ずWindowsパスワードやPINを控えてください。
- WindowsパスワードやPINを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

1 Windowsパスワードについて

Windowsにサインインするためのパスワードを、本マニュアルでは「Windowsパスワード」と呼びます。

管理者ユーザーのWindowsパスワードは、初めてパソコンを起動しWindowsセットアップを行う際に設定します。

Windowsパスワードの設定／変更方法

1. [スタート] ボタン () をクリックする
2. [設定] をクリックする
3. [アカウント] → [サインイン オプション] → [パスワード] をクリックする
4. 画面の指示に従って、Windowsパスワードを設定／変更する

2 PINについて

Windows/パスワードの代わりに、PIN(暗証番号)を入力してWindowsにサインインできます。PINを設定するには、あらかじめ、Windows/パスワードの設定を行っておく必要があります。

PINの設定／変更方法

1. [スタート] ボタン () をクリックする
2. [設定] をクリックする
3. [アカウント] → [サインイン オプション] をクリックする
4. PINを設定／変更する
 - ① [PIN (Windows Hello)] をクリックする
 - ② 画面の指示に従って、PINを設定／変更する

3 指紋認証を使う

＊ 指紋センサー搭載モデルのみ

「指紋認識 (Windows Hello)」または「Windows Hello指紋認証」を使用すると、指紋センサーに指紋を読み取らせることで、Windowsにサインインできるようになります。

Windows/パスワードやPINの代わりに、指紋の情報で、本人であることを認証する機能です。

お願い 指紋認証の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 指紋センサーについて『取扱説明書 付録 1 ご使用にあたってのお願い』

- 登録できる指紋データは全ユーザー合わせて10本です。
- 電源を入れるときに指紋認識 (Windows Hello) を行うよう設定することができます。
指紋認証の操作を行う場合は、電源を入れるときと同じ位置で指の指紋を登録してください。
登録のときと電源を入れるときとで指の位置が異なると、指紋認識 (Windows Hello) で失敗することがあります。

1 指紋を登録する

指紋を登録するには、指紋を登録するユーザーアカウントに対して、Windows/パスワードとPINが必要です。

参照 設定方法 [「Microsoft アカウントのパスワードやPIN、またはWindows/パスワード \(57ページ\)」](#)

1. 指紋を登録するユーザーアカウントでサインインする
2. [スタート] ボタン () をクリックする
3. [設定] をクリックする
4. [アカウント] → [サインイン オプション] をクリックする
5. [指紋認識 (Windows Hello)] → [セットアップ] をクリックする
[Windows Helloへようこそ] 画面が表示されます。
6. [開始する] をクリックする
[ユーザーを確認しています] 画面が表示されます。
7. [PIN] にPINを入力する
[指紋センサーにタッチ] 画面が表示されます。

8. 指紋センサーに指紋を読み取らせる

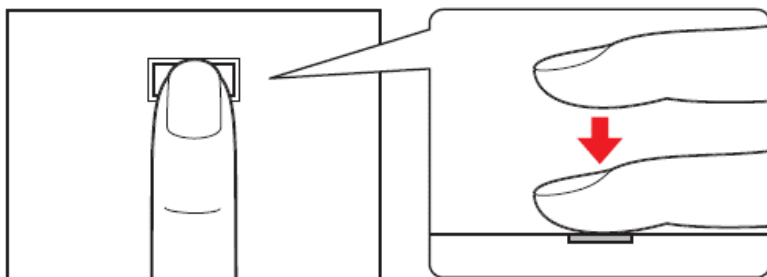
指紋は数回スキャンする必要があります。

「次は別の角度で行ってください」画面が表示された場合は、指の縁を読み取るために角度を変えて「すべて完了しました。」画面が表示されるまでスキャンしてください。

続けてほかの指紋を追加する場合は、「別の指を追加」をクリックしてください。

Memo 指紋センサーに指紋をうまく読み取らせるには

指紋センサーに対して指をまっすぐ出し、指を寝かせた状態で、指紋センサーの中央に当て、離してください。



9. 「すべて完了しました。」画面が表示されたら、「閉じる」をクリックする

- Memo**
- 「閉じる」をクリックして登録を終了後、ほかの指紋を追加する場合
 - ① 「サインインオプション」で、「指の追加」をクリックする
 - ② 手順6 からの操作を繰り返す

2 指紋認証を行う

登録した指紋を指紋センサーに読み取らせることで、Windowsへサインインできます。

1. ロック画面（画面中央または左下に大きく日時が表示されている状態）やサインインを求められている画面で、登録した指紋を指紋センサーに読み取らせる

Windowsにサインインします。

ユーザーパスワードの代わりに指紋で認証を行う（起動認証／シングルサインオン）

起動認証とは、パソコンの起動時に、ユーザーパスワードの代わりに、指紋認証を使用できる機能です。

また、シングルサインオンを有効にすると、起動認証後にWindowsにも自動的にサインインすることができます。シングルサインオンは、起動認証時に使用したWindowsのアカウントで行われます。

1. ユーザーパスワードを登録する

参照 [「ユーザーパスワードの登録（49ページ）」](#)

2. 「dynabook セッティング」を起動する

- ① タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
- ② 検索結果に表示される「dynabook セッティング」をクリックする

認証画面が表示されるので、ユーザーパスワードで認証を行ってください。

3. [システムパスワード] の [起動認証設定] で、[起動認証は、コンピューター起動時にユーザーパスワードを入力する代わりに指紋で認証できるようにします。] にチェックを付ける

「変更した設定を反映するにはパソコンの再起動が必要です。」というメッセージが表示されます。

4. [はい] を選択する

本製品が再起動され、起動認証が有効になります。

Memo

- 手順4で本製品の再起動を行うと、[dynabook セッティング] → [システムパスワード] → [起動認証設定] の [シングルサインオンは、起動認証後、認証が成功した指紋が登録されているWindowsのアカウントで自動的にサインインします。] が設定できるようになります。

お願い

指紋認証でサインインできない場合は

指紋認証でサインインできない場合は、指紋認証以外（PINなど）でサインインを行ってください。
指紋認証のエラーが続く場合は、指紋の登録をやり直してください。

3 指紋データを削除する

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した指紋データを削除してください。指紋データの削除は、次のように行ってください。

1. [スタート] ボタン () をクリックする
2. [設定] をクリックする
3. [アカウント] → [サインイン オプション] をクリックする
4. [指紋認識 (Windows Hello)] → [削除] をクリックする

指紋データが削除されます。

お願い 指紋データの削除にあたって

- 指紋データは、ユーザー（アカウント）ごとの削除が必要です。

4 顔認証を使う

＊ 顔認証センサー搭載モデルのみ

「顔認識 (Windows Hello)」または「Windows Hello顔認証」を使用すると、顔認証センサーに顔の情報を読み取らせることで、Windowsにサインインできるようになります。WindowsパスワードやPINの代わりに、顔の情報で、本人であることを認証する機能です。

お願い 顔認証の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 顔認証センサーについて『取扱説明書 付録 1 ご使用にあたってのお願い』

1 顔の情報を登録する

顔の情報を登録するには、顔の情報を登録するユーザーアカウントに対して、Windows/パスワードとPINが必要です

参照 設定方法 [「Microsoft アカウントのパスワードやPIN、またはWindowsパスワード \(57ページ\)」](#)

1. 顔を登録するユーザーアカウントでサインインする
2. [スタート] ボタン () をクリックする
3. [設定] をクリックする
4. [アカウント] → [サインイン オプション] をクリックする
5. [顔認識 (Windows Hello)] → [セットアップ] をクリックする
[Windows Helloへようこそ] 画面が表示されます。
6. [開始する] をクリックする
[ユーザーを確認しています] 画面が表示されます。
7. [PIN] にPINを入力する
顔認証センサーに映った画像が表示されます。
8. 顔認証センサーの正面に顔を向ける
参照 顔認証センサーの位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』
顔認証センサーをまっすぐ見続けてください。
[すべて完了しました。] 画面が表示されるまで、そのままお待ちください。
9. [すべて完了しました。] 画面が表示されたら、[閉じる] をクリックする

2 顔認証を行う

顔の情報を登録すると、顔認証センサーに顔を向けることで、Windowsへサインインできます。

1. ロック画面（画面中央または左下に大きく日時が表示されている状態）やサインインを求められている画面で、顔認証センサーの正面に顔を向ける

Windowsにサインインします。

3 顔データを削除する

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した顔データを削除してください。顔データの削除は、次のように行ってください。

1. [スタート] ボタン () をクリックする
2. [設定] をクリックする
3. [アカウント] → [サインイン オプション] をクリックする
4. [顔認識 (Windows Hello)] → [削除] をクリックする

顔データが削除されます。